

桃原 康平

琉球大学

国際地域創造学部へ進学

興南中学校出身
俳句部所属
興南アクト部



*全国で個人最優秀賞

俳句を始めたのは同級生に誘われたことがきっかけ。そこから興味が広がり俳句部に入部した。

俳句甲子園という全国大会で県勢初の個人最優秀賞を受賞することができたが、団体戦は活躍できていなかったので次年度の決意を固めたのを覚えている。高3は俳句部を部長として全国大会へ導くことができた。

俳句を始めたことで県外の人との繋がりも広がり、また普通に生きていたら学ばない文学を知ることができ、新しい視点で物事を見るようになったように思う。

— 興南はどんな学校? —

私立ということもあり、勉強に対する意欲はわきやすいと思った。周りが勉強を頑張る人たちだったので、主体的に勉強に取り組める環境だと思う。先生方は個性的で面白く、ただ教科書の内容を教えるだけでなく先生方が経験してきたことを踏まえて伝えてくれることはありがたいなと思う。

— 興南で成長できた事は? —

多様な考えを理解できるようになったと思う。フロントティアコースの個性的な友達と長く付き合うと、それを個性として認めあえることができるようになった。小中は勉強が嫌いだったが、高校生になり色々な人たちと関わる中で、何かしらに繋がることをわかってきて、勉強が楽しくなってきた。

— 興南アクト部とは? —

興南アクト部は中高生が同じ立ち位置に立って、修学旅行生に對して首里城ガイドや交流会を行う部活。その部活動を続ける中で沖縄のことを調べたり、首里城に行つてガイドする中で沖縄の魅力に気づき、大学で学びたい事とも繋がっていったと思う。

推薦入試がダメでも落ち込めませんが、センター試験に対するやる気に繋がった。真面目に勉強してわかつていくことが楽しくなり、センター試験が最後は楽しく感じた。

— これからの目標は? —

大学では沖縄の観光を学びたい。興南アクト部で中学から首里城ガイドを続けてきて、沖縄の観光を身近に感じてきた。今回の首里城火災やコロナの影響での経済損失も考え、今後の沖縄の観光を考えていきたい。卒業後は教員か、観光に従事しようか迷っているが、何かしらの形で沖縄の観光に對して関わっていきたいと思っている。

